平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年7月29日

上場会社名　株式会社シーボン　　上場取引所　大
コード番号　4926　URL　http://www.cbon.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 金子　靖代
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部担当　(氏名) 諏佐　貴紀　TEL 044-979-1234

四半期報告書提出予定日　平成23年8月12日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	3,562	△7.2	280	△36.8	293	△36.0	△293	―
23年3月期第1四半期	3,837	3.0	443	36.1	458	35.8	169	△7.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	△69.23	―
23年3月期第1四半期	40.01	―

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	10,412	8,213	78.8
23年3月期	11,031	8,740	79.2

(参考) 自己資本　24年3月期第1四半期　8,209百万円　23年3月期　8,737百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	35.00	―	55.00	90.00
24年3月期	―				
24年3月期(予想)		30.00	―	50.00	80.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,165	△5.6	608	△29.5	633	△28.8	△148	―	△34.92
通期	14,698	0.4	1,356	0.9	1,406	0.6	352	△47.7	83.13

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期1Q	4,243,000 株	23年3月期	4,243,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期1Q	138 株	23年3月期	138 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期1Q	4,242,862 株	23年3月期1Q	4,242,940 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）財政状態に関する定性的情報 …… 2
（３）業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 3
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要 …… 3
４．四半期財務諸表 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 6
第１四半期累計期間 …… 6
（３）四半期キャッシュ・フロー計算書 …… 7
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する定性的情報

当第１四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災に伴う経済活動の停滞並びに夏場の電力不足問題、欧州を中心とする金融不安等により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社の属する化粧品業界におきましては、国内市場がほぼ成熟している中で、異業種からの参入に伴う競争激化に加え、東日本大震災の影響による個人消費の低迷など、依然として厳しい事業環境が続いております。

こうした経営環境の中、当社は創業以来、「お客様の美を創造し演出する会社」として、「お客様に美しくなることを提供し、その結果に最後まで責任を持つ」ために、化粧品の研究・開発、製造から販売、アフターサービスに至るまでの製販サービス一体の事業展開を行い、化粧品にアフターサービスという独自の付加価値をつけることにより、他メーカーとの差別化を図ってまいりました。

当第１四半期累計期間における主な販売活動におきましては、ブランド力の強化を図るべく、新店の開設及び既存顧客に対するきめ細やかなサービスと顧客ニーズに対応した製品を提供してまいりました。

店舗におきましては、５月に直営店として104店舗目となる江坂東急プラザオッツ店をオープンし、近畿地方の販売網の強化を図りました。

新規顧客の獲得におきましては、イベント集客及びＷＥＢ広告の強化等に取り組む計画ではありましたが、東日本大震災の影響に伴い集客活動の一部自粛を余儀なくされました。

既存顧客に対しましては、季節に応じたスキンケアの訴求や顧客紹介キャンペーン等、楽しく定期的にご来店頂ける企画を実施するとともに、顧客満足度向上のためメールアンケートを積極的に活用したきめ細やかなサービスの提供など、顧客管理体制の強化を徹底し、顧客の来店促進を行ってまいりました。

販売促進キャンペーンとして、下記の期間限定製品を発売いたしました。

・４月：紫外線量が気になる春からの美白対策として、美白スキンケアラインのホワイトシリーズより期間限定セットを発売。
・５月：３ステップの美白ケアプログラムとして、毎年人気の『ＳＰＡ　ＢＡ』をさらにバージョンアップした夏季限定のスペシャルセットを発売。

以上の販売活動を実施した結果、直営店舗における売上高は3,473,461千円（前年同期比7.4%減）となりました。

一方、当社は東京化粧品厚生年金基金に加入しておりましたが、将来的に財務面でのリスクが懸念されるため、同基金から脱退し、これに伴う特別掛金772,147千円を特別損失として計上いたしました。

この結果、当第１四半期累計期間の業績は、売上高3,562,022千円（前年同期比7.2%減）、営業利益280,313千円（前年同期比36.8%減）、経常利益293,660千円（前年同期比36.0%減）、四半期純損失293,725千円（前年同期は四半期純利益169,771千円）となりました。

（２）財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第１四半期会計期間末の資産は10,412,980千円となり、前事業年度末に比べて618,715千円減少いたしました。その主な要因は、現金及び預金の減少（前事業年度末比1,183,369千円減）、売掛金の増加（前事業年度末比335,907千円増）によるものであります。

（負債）

当第１四半期会計期間末の負債は2,199,977千円となり、前事業年度末に比べて91,606千円減少いたしました。その主な要因は、未払法人税等の減少（前事業年度末比263,923千円減）によるものであります。

（純資産）

当第１四半期会計期間末の純資産は8,213,002千円となり、前事業年度末に比べて527,109千円減少いたしました。その主な要因は、利益剰余金の減少（前事業年度末比527,083千円減）によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第１四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ1,683,369千円減少し、当第１四半期会計期間末には1,772,336千円（前年同期比37.5%減）となりました。

当第１四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第１四半期累計期間において、営業活動の結果使用した資金は927,232千円（前年同期は得られた資金29,803千円）となりました。これは主に、税引前四半期純損失479,880千円、売上債権の増加335,907千円、法人税等の支払額259,450千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第１四半期累計期間において、投資活動の結果使用した資金は558,329千円（前年同期比861.8%増）となりました。これは主に、定期預金の預入による支出500,000千円、有形固定資産の取得による支出49,710千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第１四半期累計期間において、財務活動の結果使用した資金は197,806千円（前年同期比22.0%増）となりました。これは、配当金の支払によるものであります。

（３）業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成23年５月９日付「平成23年３月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」にて発表いたしました第２四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

４．四半期財務諸表
（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成23年３月31日）	当第１四半期会計期間 （平成23年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,455,706	2,272,336
売掛金	907,886	1,243,794
商品及び製品	300,329	316,570
仕掛品	98,548	101,872
原材料及び貯蔵品	387,258	406,502
その他	395,571	591,157
貸倒引当金	△391	△536
流動資産合計	5,544,909	4,931,698
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,161,009	2,154,536
土地	1,376,454	1,376,454
その他（純額）	403,536	401,866
有形固定資産合計	3,940,999	3,932,856
無形固定資産	99,985	106,017
投資その他の資産		
その他	1,449,093	1,445,183
貸倒引当金	△3,292	△2,775
投資その他の資産合計	1,445,800	1,442,407
固定資産合計	5,486,786	5,481,282
資産合計	11,031,696	10,412,980
負債の部		
流動負債		
買掛金	143,570	149,368
未払法人税等	277,084	13,161
賞与引当金	20,949	6,206
役員賞与引当金	17,050	17,125
ポイント引当金	406,497	432,765
資産除去債務	400	401
その他	987,682	1,137,313
流動負債合計	1,853,234	1,756,342
固定負債		
資産除去債務	246,550	252,702
その他	191,799	190,933
固定負債合計	438,349	443,635
負債合計	2,291,584	2,199,977

（単位：千円）

	前事業年度 （平成23年３月31日）	当第１四半期会計期間 （平成23年６月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	449,547	449,547
資本剰余金	333,447	333,447
利益剰余金	7,974,520	7,447,437
自己株式	△194	△194
株主資本合計	8,757,320	8,230,237
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△19,464	△20,337
評価・換算差額等合計	△19,464	△20,337
新株予約権	2,256	3,102
純資産合計	8,740,111	8,213,002
負債純資産合計	11,031,696	10,412,980

（２）四半期損益計算書
（第１四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第１四半期累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年６月30日）	当第１四半期累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年６月30日）
売上高	3,837,117	3,562,022
売上原価	641,740	704,129
売上総利益	3,195,377	2,857,892
販売費及び一般管理費		
従業員給料	1,148,337	1,064,383
その他	1,603,173	1,513,195
販売費及び一般管理費合計	2,751,510	2,577,578
営業利益	443,866	280,313
営業外収益		
受取利息	511	180
受取配当金	2,611	2,460
受取家賃	11,509	11,509
その他	693	203
営業外収益合計	15,325	14,354
営業外費用		
支払利息	407	－
社宅等解約損	－	785
その他	65	222
営業外費用合計	473	1,008
経常利益	458,719	293,660
特別損失		
固定資産除却損	4,489	1,392
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	156,680	－
厚生年金基金脱退拠出金	－	772,147
その他	289	－
特別損失合計	161,459	773,540
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失（△）	297,259	△479,880
法人税、住民税及び事業税	133,736	5,538
法人税等調整額	△6,248	△191,692
法人税等合計	127,487	△186,154
四半期純利益又は四半期純損失（△）	169,771	△293,725

（３）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第１四半期累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年６月30日）	当第１四半期累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年６月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失（△）	297,259	△479,880
減価償却費	73,523	67,529
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	156,680	－
厚生年金基金脱退拠出金	－	772,147
貸倒引当金の増減額（△は減少）	41	△371
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△300	75
賞与引当金の増減額（△は減少）	△24,825	△14,743
ポイント引当金の増減額（△は減少）	△54,405	26,268
受取利息及び受取配当金	△3,122	△2,641
支払利息	407	－
固定資産除却損	4,489	1,392
売上債権の増減額（△は増加）	△96,692	△335,907
たな卸資産の増減額（△は増加）	31,441	△38,808
仕入債務の増減額（△は減少）	△69,539	5,798
その他	15,007	100,624
小計	329,964	101,482
利息及び配当金の受取額	2,787	2,882
厚生年金基金脱退拠出金の支払額	－	△772,147
法人税等の支払額	△302,947	△259,450
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,803	△927,232
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	－	△500,000
有形固定資産の取得による支出	△48,066	△49,710
敷金及び保証金の差入による支出	△870	△374
敷金及び保証金の回収による収入	1,174	2,115
その他	△10,288	△10,360
投資活動によるキャッシュ・フロー	△58,051	△558,329
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△162,080	△197,806
財務活動によるキャッシュ・フロー	△162,080	△197,806
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△190,327	△1,683,369
現金及び現金同等物の期首残高	3,026,262	3,455,706
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,835,935	1,772,336

（４）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。